２０２５年　矢向あけぼの保育園だより２月号

今年も、怖い鬼が矢向あけぼの保育園にもやってきました。
子どもたちにとって一番嫌いな日です。毎年、染谷さんのお家から
ヒイラギをもらって、めざしを焼いてその頭をヒイラギにさして
保育園の入り口にしっかり貼って、鬼が入ってこられないように厳重に結界をつくります。ですが何故か、鬼はどこかの入り口から来て暴れて帰っていきます。特に今年の年長さんは、鬼に立ち向かっていく勇者が多く頑張って追い返してくれました。その日の年長さんは、朝から火おこしをして、めざしを焼いてくれます。鬼は、イワシの匂いが嫌いなので焼いているときもいっぱい煙の臭いをつけて、対策を講じて頑張ってくれました。大変な日を乗り越え、子どもたちは新年度に
向かってひとつ大きくなる事への、期待する気持ちや自信につながっていくのだと思います。

節分は、季節を分けるという意味です。本来は、各季節の始まりである立春・立夏・立秋・立冬の前日をいいます。季節をわけるという意味で、昔は立春が一年の始まりと考えられていて、その前日は大晦日になります。厄を払い新しい年を迎える大事な行事だったので、４つの節分の中で２月の節分が今でも残ったようです。悪いものは、鬼門と呼ばれるところから入ると考えられていたので、方角から言うと丑寅になります。ですので、鬼は丑の角と虎のパンツ、牙と爪を持った姿をしているとなったようです。

古来より、鬼は妖怪や死者もしくは人の怨念が姿となって人に悪さをすると表現されています。子どもたちは、絵本の「じごくのそうべえ」や「桃太郎」の鬼のイメージが浸透しています。矢向あけぼの保育園は、赤鬼と青鬼が来ますが仏教の世界は、５色の鬼がいるそうです。赤鬼は貪欲・青鬼は瞋恚（しんに）＝怒り、憎しみ、恨みという意味・黄鬼は掉挙（じょうこ）悪作（おさ）＝甘え、執着という意味・緑鬼は惛沈（こんじん）睡眠（すいめん）＝怠惰・黒鬼は疑惑と５つの煩悩を表しているようです。

幼児のクラスのお友だちは、自分の中にいる鬼はどんな鬼なのか考えていました。まさに、自分の中にある煩悩と向き合う事です。自分の中にある弱いところと向き合うのは、勇気がいる事です。大人は、自分自身のマイナス面はわかっていても認めたくなくて、いろいろ言い訳をしてしまう事もあると思いますが、「こんな事やっちゃうんだよね。」「どうしても片付けられないんだよね。」と素直に受け止めていく子どもの姿を見ると、私たちも見習わなければと感じています。

新しい年のスタートに向けて動き出している子ども達です。年長さんは小学校へ、きりんグループは年長になること等、期待と不安がまざった気持ちが時折伝わってきます。保育園で大人や友だちと過ごしてきた経験が、子どもたちの中に自信や喜びとなっていって欲しいと願っています。

厚生労働省が最近の発表で、『自殺者は昨年度より減少したが、児童・生徒は過去最多の数に上った』とありました。子どもの命を守る取り組みの強化が急がれるとありましたが、世界の中で日本の子どもたちは、自己肯定感が低いと言われています。子どもたちの、物理的・精神的に安心できる居場所、存在を保てるつながりがあることが大切だと言われています。子どもたちを、守る存在の大人が厳しい現状を生きている裏返しという、見方をしている人もいます。

このような、ニュースを聞くと国全体は難しくても、この矢向あけぼの保育園で育った子どもたちは、幸せな子ども時代を過ごして欲しいと切に願います。そのために、『また明日もきたい』と子どもたちに言ってもらえる保育をつくっていきたいと思います。

飯田　雅美